

## 中国語公式字幕とファンサブの対比研究

- 『ONE PIECE FILM GOLD』を例に -

貢 希真

(東北大学国際文化研究科・博士2年)

**Abstract:**

*This paper compares the Chinese official subtitle with a fansub of Japanese animation film ONE PIECE FILM GOLD, to examine the differences between them. Official subtitle suffers from censorship, policies and low-age target audience which force professional subtitlers to delete inappropriate contents, change the background of the story, and translate all expressions in Chinese, while fansub with youth as target is not influenced by censorship and policies, which allows fan subtitlers to translate faithfully and even retain the original words. Furthermore, annotations are taboo to official subtitlers, but fansub succeeds in breaking the spatiotemporal limit and add annotations to convey as much information as possible. Finally, mistranslations are only found in the official subtitle, which suggests the professional subtitlers translated the movie without watching the screen. And the translation inconsistency implies subtitlers did not discuss their translations. On the whole the fansub did a better job.*

## 1. はじめに

近年、日本から中国に輸入される映画が増加する傾向にある。2016年中国の映画館で上映された日本映画は前例のない11本に上った。人々は文字だけではなく、日本の映像作品を通じて日本を知るようになる。また、中国はもともと吹き替えを主流とする国であるが、近年、中国の視聴者の鑑賞習慣が変わりつつあり、俳優の生の声を聞きたい、もっと本場の外国文化に触れたいなどの要望により、吹き替え版と字幕版の両方が提供されるようになった。このような状況の下で、より円滑な異文化コミュニケーションを行うため、適切な翻訳が必要とされる。しかし、日中間の視聴覚翻訳 (Audiovisual Translation) に関する研究は非常に少ない。これから両国の更なる文化交流を見据え、視聴覚翻訳、特にますますその地位を向上させつつある字幕を研究することが必要である。

日中間の視聴覚翻訳の研究は少ないが、その翻訳そのものは非常に多い。2000年代半ばより、日本の映像作品の輸入が厳しく制限されているため、一部のファンが自主的にグループ (中国語で「字幕組」という) を結成し、自ら好きな作品に字幕を付けてインターネ

---

Xizhen Gong, "Official subtitle and fansub in Chinese: A case study of ONE PIECE FILM GOLD," *Invitation to Interpreting and Translation Studies*, No.17, 2017. pages 35-49. © by the Japan Association for Interpreting and Translation Studies.

ットを通じて配信するようになった。ファンが作る字幕は「ファンサブ (fansub)」と呼ばれている。数年を経てファンサブグループが大きな発展を得て、独自の翻訳スタイルを確立している。しかし、2011年以降、風向きが大きく変わり、中国の動画配信会社が日本の権利者より正規にライセンスを購入し、無料配信を始めた。同時に、中国が不正な動画配信を停めるため、数多くのサイトが処罰の対象となり、閉鎖された。ファンサブグループの活動も地下に潜らざるを得ない。現在のところ、公式字幕とファンサブはお互い競い合い、補い合い関係になっている。ファンサブグループが長い間積んだ経験は公式字幕の質の向上非常に役立つと思われる。

本稿は、2016年7月23日に日本で、そして同年11月11日に中国公開された日本のアニメーション映画『ONE PIECE FILM GOLD』の中国語公式字幕と一つのファンサブを対比し、両字幕の翻訳ストラテジーの違いを考察し、その原因を究明することを目的とする。

## 2. 先行研究

### 2.1 字幕の特徴

視聴覚翻訳に関する研究は1950年代後半から始まり、20世紀末についてブームを迎えた (Díaz Cintas 2009)。多くの研究者が述べているように (Karamitroglou 1998; Díaz Cintas 2008; 清水 1992: 16-17)、字幕には時間と空間の制限がある。即ち、同時に出現する行数、一行あたりの文字数、字幕の持続時間、二枚の字幕の間の空き時間などの制約に縛られざるを得ず、それによって、情報の圧縮や損失が避けられない。ヨーロッパ言語も日本語も文字にして三分の一程度に圧縮される (Pedersen 2011: 21; 清水 1992: 29)。

また、映画やテレビでは視聴者は巻き戻してもう一度見ることができない。DVDやインターネットであればそれも可能であるが、それでは流れが絶たれ面白みが減る恐れがある。したがって、字幕に必要とされるのは、明瞭さ (clarity)、読みやすさ (readability)、そして明快な指示 (transparent references) である (Díaz Cintas & Remael 2014: 185)。

理想的な字幕は視聴者が自分が字幕を見ていることを気づかず、映画と字幕の両方を同時に楽しむことができるものである (ibid; Chiaro 2013)。

### 2.2 公式字幕とファンサブ

公式字幕はプロの翻訳者が作るのに対して、ファンサブは熱狂的なファンが作るものである。ファンがファンサブの形式で翻訳する理由は、そもそも公式作品が存在しないこと、公式字幕のレベルが低いことに対する不満、また、自分の国で自分の好きな作品を広めたい、自分の翻訳を視聴者に評価されたいという気持ちにある (Bogucki 2009; Massidda 2015: 41; 吳 2010)。

公式字幕とファンサブには決定的な違いが幾つかある。まず、公式字幕の翻訳者には台本があるので、それを読んで翻訳することができるのに対して、ファンサブの翻訳者は台本を入手できない場合が多く、会話をすべて自分で聞き取るしかない。従って、ファンサブの質は翻訳者の実力次第で大きく変わり、予測できない (Massidda 2015: 4)。しかし、DVDやブルーレイが発売されていれば、原文字幕を参考にして翻訳することができ、公式

字幕との条件の差は小さくなる。次に、公式字幕では字幕の出し入れのタイミングが翻訳する前にすでに決まっている場合が多いので、翻訳者はそのタイムスロットに合わせて翻訳しなければならない。それに対して、ファンサブはそのタイミングも自分で調整できるので、公式字幕より字幕の制作過程をコントロールできる (ibid: 12)。最後に、公式に公開された映画やドラマなどは審査によって不適切なシーンや発言を削除されることがあるが、ファンサブでは一切の削除なしですべてのシーンが見られる。

Pettit (2009) によれば、視聴覚翻訳に影響を与える要因には、吹き替えか字幕かという点以外に、(a) 視聴覚テキストの種類、(b) 目標視聴者の年齢・専門・知識、(c) 配布手段、(d) プログラム自体の内容が要求する特定の条件、という四つがある。公式字幕とファンサブの違いは (b) と (c) にある。公式字幕は可能な限りの大衆を目標視聴者としているが、ファンサブはファンだけを目標視聴者としている。また、公式な作品は映画館、テレビまたは DVD で見られるが、ファンサブはインターネット経由で配布され、パソコンで見るのが普通である。後述するように、この二点の違いから、公式字幕とファンサブは異なる翻訳戦略を取ることになる。

公式字幕の特徴は上で述べた通り、流暢さを重視し、意識や省略が多い。これに対して、ファンサブの特徴は異国化 (foreignization) と暴力的忠実性 (abusive fidelity) そして目標志向性 (target-orientedness) にある (Massidda 2015: 62)。異国化とは原文の言語と文化の違いを訳文にも保持する翻訳手法である (Venuti 2008: 15)。暴力的忠実性は原文の意味内容への忠実さに止まらず、表現のモダリティや修辭的戦略への忠実にも至る (Lewis 2000)。さらに、Nornes (1999) は字幕に避けられない時間と空間の制限を打破し、完全を装わず、自らに厳しい規則を課したうえで、自身の存在を隠さない将来性のある新興の字幕実践、即ち暴力的字幕翻訳 (abusive subtitling) を提唱した。目標志向性とは翻訳者自身もファンなので、ファンの需要を熟知しており (Díaz Cintas & Muñoz Sánchez 2006)、ファンに本物の異文化を堪能して欲しいと考えている以上、忠実になる傾向が強いのは当然である。

ファンサブには公式字幕にない画期的な点はいくつかある。例えば、同一作品に異なるフォントやフォントサイズの字幕を使い、色の違いで発話者を区別し、字幕の出現位置が固定ではないなどの手法が見られる。中でも最も特筆すべきはファンサブには注釈が使われるということである。公式字幕で禁忌とされる注釈は、空間と時間の制約を打破するだけでなく、字幕が視聴者に意識されるべきものではないという金科玉条をも破り、翻訳者の存在を剥き出しにする (Cheng 2014; Díaz Cintas 2005; Díaz Cintas & Muñoz Sánchez 2006)。Nornes (1999) は日本アニメの英語ファンサブに見られる注釈を分析し、翻訳不可能な単語をローマ字で表示したうえで、フォントの色を変えて表示し、画面を覆うほどの注釈があるという。Nornes によれば、これは訓練を受けていないファンサブの翻訳者が「本能的に」したことである。Díaz Cintas & Muñoz Sánchez (2006) は日本アニメの英語とスペイン語のファンサブを研究し、地名、伝統、出典などが注釈で現れることが多いと指摘している。

映画やドラマの輸出入には審査が付き物である。審査によって不適切なシーンが削除さ

れるだけではなく、公式字幕の表現や言葉使いにも影響が出る。一方、ファンサブには審査が一切ないため、原文に不適切な表現があってもそのまま保持できる。Massidda (2015) はアメリカのテレビドラマ *Californication* のイタリア語公式字幕と二つのファンサブを比較し、卑語やユーモア表現が審査によってどのような影響を受けたのを調査した。その結果、性的表現や卑語は公式字幕では削除されたり別の言葉に変えられたりするが、ファンサブでは完全に保持される。また、ポリティカル・コレクトネスのため、差別、麻薬に関する不適切な表現は公式字幕では抑えた表現になるが、ファンサブでは文字通り翻訳される。Fong (2009) は英語映画の香港公式字幕を調べ、Massidda と同様に、性的表現や卑語が削除されたり、中和されたりすることを見出した。Fong (2009) によればその原因は、香港では法律によって、中国語の卑語が一つでも字幕に出現すると、内容と関係なく、必ず III 区分 (18 歳未満の入場を禁止) に分類される。そうなれば興行収入に大きな影響を与えることになるので、翻訳者や配給会社は細心の注意を払って自ら不適切な表現を規制して収入を減らすリスクを回避している。興味深いのは、香港の視聴者の大多数は英語を理解できるにも関わらず、英語で卑語が使用されても「罪」にならないが、中国語字幕で卑語が使われるのは「罪」になるのである。

### 3. 研究方法

本論文は世界的に有名な日本のマンガ『ONE PIECE』を原作とした第 13 作目のアニメーション映画『ONE PIECE FILM GOLD』の中国語公式字幕とファンサブを研究対象とする。主人公の麦わらの一味が巨大な船の上にてきた世界最大のエンターテインメントシティ「グラン・テゾーロ」で冒険し、そこの主人である「黄金帝」ギルド・テゾーロと激突し、最後に彼を打ち破るというストーリーである。『ONE PIECE』は非常に影響力を持ち、この映画が日本で上映されたときには、訪日・在日外国人のため、英語／中国語 (簡体字) の 2 言語字幕併記版も上映されたことがある<sup>1</sup>。また、中国が日本から輸入する映画はアニメ映画がメインで<sup>2</sup>、さらに、中国での上映から本稿執筆時までまだ半年たっていないので、字幕翻訳に関する最新の傾向を伺うことができる。

中国で上映された際には、『ONE PIECE FILM GOLD』は吹き替え版と字幕版の両方が提供された。上映終了後、中国の動画サイト IQIYI が正規のライセンスを取得して配信を始めた。公式字幕の翻訳者は翻訳会社「傳神語聯 (传神语联)」の李娜である。

ファンサブは「OPFans 楓雪動漫 (OPFans 枫雪动漫)」という字幕組が翻訳したものを選んだ。「OPFans」は『ONE PIECE』のファンの略称である。この字幕組は近年『ONE PIECE』のテレビアニメや映画の字幕作りに専念し、1 話から最新話まで字幕を制作した。このシリーズに対する理解や字幕翻訳の経験は十分である。また、字幕組は DVD やブルーレイ発売のあと、日本語の字幕を参照して翻訳したので、公式字幕よりも必ずしも不利とは言えない。

以下では、上記の両字幕を具体例を挙げて比較し、翻訳ストラテジーの違いとその原因を考察する。原文は『ONE PIECE FILM GOLD』ブルーレイの日本語字幕による。括弧の中の逆翻訳は筆者自身によるものであり、できるだけ逐語訳にする。重要なところは太字

で表示する。両字幕に多少時間のズレがあるので、ブルーレイ版の時間を基準とする（合計 120 分 7 秒）。

#### 4. 分析と考察

##### 4.1 自己検閲

翻訳者が何らかの理由で原文の情報を故意に隠蔽し、訳文に出さないことがある。公式字幕の翻訳者が情報を隠す最大の理由は審査を受ける必要があるからである。中国大陸にも映画の審査が存在し、政治、道徳、暴力、性などに関する不適切な内容を規制している。しかし、アメリカや日本のようなレーティングシステムは存在せず、全ての年齢層が鑑賞可能のため、全ての作品を同じ基準で判断しなければならない。そのため、中国で上映する作品には一部のシーンが修正・削除されることが多い。また、セリフにそのような不適切な内容があれば、字幕に出さないことにすれば、外国語が一定のレベルに足してない大多数の視聴者にはその情報が受信できなくなる。特に悪影響を受けやすい未成年者はオーセンティックな外国語が聞き取れないのが普通なので、こうしたやり方は確かに一定の効果がある。それに対して、ファンサブはそういう審査を受けないため、不適切な内容があっても、それを隠す必要がない。むしろ視聴者が本物の異文化を求めることを考え、敢えて忠実に翻訳する。

この映画はアニメ映画で、未成年者が目標視聴者の重要な一部なので、公式字幕に対する審査の影響が大きい。タイトルの翻訳からもそれが分かる。

日本語タイトル	公式タイトル	ファンサブタイトル
ONE PIECE FILM GOLD	航海王之黄金城 (航海王 黄金の城)	海賊王之黄金城 (海賊王 黄金の城)

表 1 タイトルの比較

『ONE PIECE』は長い間中国のファンの中で『海賊王』と呼ばれている。海賊王になるのは主人公ルフィの夢であり最終目標でもある。中国語には「海賊」という漢字表現がないにも関わらず、日本の漢字表現をそのまま借用して定着したものである。しかし、「賊」という表現は悪者に使われるべきもので、また、この漢字は中国語において非常に強いネガティブな意味を持っているので、主人公に使うのは不適切であるとも感じられる。公式字幕はマンガ『ONE PIECE』の中国語公式タイトルと一致させ、主人公たちが夢を実現する方法である「航海」をタイトルに加えている。さらに、本編中出现する「海賊」はファンサブでは一律にこの漢字をあてているが、公式字幕ではほぼ全てで中立的な「航海家（航海に精通した者）」と翻訳されている。しかし、主人公一行を紹介するシーンに、画面上に出る懸賞金はきちんと翻訳されているので、麦わらの一味が世界のお尋ね者であることが分かる。

また、この映画には設定上、賭博に関する言葉が多い。中国大陸ではマカオ以外ではギャンブルやカジノの開設は違法である。そのため、凡そ中国語に直訳すると「賭（賭ける）」

の字が付く言葉は「賭」を使わない中立的な言葉に置き換えられている。それに対して、ファンサブは構わず直訳している。

原文	公式字幕	ファンサブ
一獲千金が狙える <b>カジノ</b> の街 (00:03:51)	有望一夜暴富的 <b>游艺场</b> (一夜にして儲けを狙える <b>遊技場</b> )	可以一夜暴富的 <b>赌场</b> (一夜にして儲けることができる <b>カジノ</b> )
こいつは <b>ギャンブル</b> と一緒に (01:15:52)	这家伙和 <b>博弈</b> 是一样的 (こいつは <b>ゲーム</b> と一緒にだ)	这和 <b>赌博</b> 是一样的 (これは <b>ギャンブル</b> と一緒にだ)
これは勝ち目のない <b>賭け</b> だ (01:10:42)	这是一场没有胜算的 <b>博弈</b> (これは勝ち目のない <b>ゲーム</b> だ)	所以这种 <b>赌注</b> 毫无胜算 (だからこの <b>賭け</b> に勝ち目がない)

表2 「賭」の使用

表2に挙げたように、公式字幕は「賭」の字を明らかに回避し、「カジノ」を「游艺场」、「ギャンブル」と「賭け」は「博弈」に翻訳している。しかし、「游艺场」は書き言葉で、「博弈」はほとんど「博弈论(ゲーム理論)」にしか使われないため、会話では非常に不自然である。この二つの単語は映画全体を通して使われるので、視聴者の理解を妨げ、字幕の読みやすさを大きく損なっている。それに対して、ファンサブは直訳で、かつ非常に読みやすい。

数の上では、ファンサブには「賭」の字が50回登場するが、公式字幕にはわずか9回である。この9回の内7回は会話に出現するもので、2回は画面にある「CASINO」のネオンサインの看板の翻訳である。前者の例は表3にまとめた。後者については4.2節で扱う。

原文	公式字幕	ファンサブ
<b>ギャンブラー</b> なんだろう？ 命かける価値はあるぜ (01:11:15)	你是个 <b>赌徒</b> 对吧 他值得你 <b>赌上性命</b> (君は <b>ギャンブラー</b> そうだろう 彼は君が命を <b>賭ける</b> のに値する)	你不是 <b>赌徒</b> 吗 他值得你为他 <b>赌上性命</b> (君は <b>ギャンブラー</b> じゃない？ 彼は君が彼に命を <b>賭ける</b> のに値する)
人生の <b>ギャンブル</b> には負けたのか (01:08:57)	但人生这场 <b>赌博</b> 他却输了 (しかし人生という <b>ギャンブル</b> に彼は負けた)	在人生的 <b>赌博</b> 中一败涂地了吗 (人生の <b>ギャンブル</b> に一败地にまみれたのか)

表3 「ギャンブル」の翻訳

公式字幕はファンサブと同じ「ギャンブラー」を「賭徒」と直訳している。それは中国語に「賭徒」の代わりになる単語が存在しないからである。ただし、「命かける」や「人生のギャンブル」など比喩的な意味で使われるときに限り、公式字幕も「賭」を回避しない。

しかし、公式字幕が読みやすさを犠牲にしてまで本当にギャンブルを隠し通せるのかは疑問である。この映画が中国で上映されたとき、主人公たちがギャンブルするシーンがカットされずに残っていた。また、表2にある「一夜暴富（一夜にして儲ける）」のような表現もある。公式字幕の翻訳者は、ギャンブルの話の隠すというよりは、ただ審査を通すために極力「賭」を使わないようしているに過ぎないように見える。

この映画は原作のマンガやテレビアニメに依存しているので、原作の設定が説明なしに映画に反映されている。先に述べた通り、公式字幕は可能な限りの大衆を目標視聴者としている。原作に詳しくない視聴者のため、また審査に通るよう、公式字幕は原作の設定を一部削除また変換している。それに対して、ファンサブはファンだけを目標視聴者としている。ファンは原作の設定を知っているため、ファンサブはただ直訳で済む。

原文	公式字幕	ファンサブ
海楼石でできてるから 覇気も武器も能力も効か ねえ (01:14:26)	因为都是用海楼石做出来的 无论是毅力 武器还是其它能量 都没有用 (海楼石でできてるから 根性も武器も他のエネルギー も効かない)	因为是用海楼石制成的 所以无论是霸气 武器还是能 力都是没用的 (海楼石でできてるから 覇気も武器も能力も効かな い)
ん? おいおい 海軍もいるのか? (00:29:43)	居然还有警察 (まさか警察もいるのか)	还有海军啊 (海軍もいるのか)
フン 一体何の用だ? 革命軍 (01:41:51)	来这里有何贵干 正义联盟 (ここまで来てなんのようだ 正義リーグ)	你们到底有何贵干 革命军 (君ら一体なんのようだ 革命軍)

表4 設定の説明

原作において、「覇気」は戦闘スキル的一种で、「能力」は「悪魔の実」を食べたあと得る特殊な力を指す。「海楼石」は非常に硬度が高い鉱石で、「能力」を無効化できる。公式字幕は「覇気」を「根性」に、「能力」を「他のエネルギー」に変換して、原作の設定を知らない視聴者にとって理解できない概念を取り除く。この場合「海楼石」はただの非常に硬い石にすぎなくなる。

また、「海軍」は世界政府の軍隊で、「革命軍」は世界政府を倒そうとする組織という設定で、映画の中だけでも明らかに海軍が悪役で、革命軍が正義である。これらを直訳すると、政治的な問題に触れ、上映できなくなる恐れがある。そこで公式字幕は設定を変え、「革命軍」の本質を隠し、正義のために動く「正義リーグ」と称した。さらに、「正義リー

グ」と衝突するのは政府を代表する軍隊「海軍」ではなく、政治的に安全な「警察」とした。

公式字幕は原作の設定を削除・変換して、映画を原作から引き離そうとしている。しかし、これでは矛盾が生じ、ストーリーが破綻しかねない。また、原作の設定を知る視聴者にとって、このような情報を隠された字幕を見て、原作の情報と合わせるため余計に頭を働かせなければならない。公式字幕と違って、ファンサブは原作と強く結び付き、直訳に徹している。

#### 4.2 アルファベットに対する態度

中国の公式字幕はアルファベットを嫌悪する傾向がある。国際的に通用するアルファベットの略語（VIP など、ほとんどは英語）以外、極力アルファベット表記を回避している。それに対してファンサブは、簡単なカタカナ語は翻訳せず、もとの言語のアルファベット表現にし、単語が多少難しい場合のみ中国語に翻訳している。

原文	公式字幕	ファンサブ
レディー ゴー (00:23:36)	出发 (出発)	Ready go
イッツア！ ショータイム！ (01:18:34)	好戏开始啦 (いいショーが始まる)	It's a show time
イッツア…！ エンタテインメント！ (01:23:54)	好戏开场 (いいショーが始まる)	这就是真正的娱乐啊 (これこそ正真正銘の娯楽だ)

表5 アルファベットの使用

「Ready go」や「It's a show time」のような簡単な英語は公式字幕では全て中国語に翻訳されているが、ファンサブはそのまま英語にしている。「レディー ゴー」の「レディー」は前のセリフと重なったので、公式字幕では省略された。他方、「entertainment」は比較的難しい単語なので、ファンサブでも中国語に翻訳されている。

公式字幕とファンサブで、アルファベット表現に対する態度が異なるのは、視覚的要素の翻訳にも現れている。公式字幕は画面の中心部にアルファベット（看板など）が出現すると、必ずそれを翻訳する。それに対して、ファンサブは画面上にあるアルファベットは一切翻訳しない。

原文（画面上の文字）	公式字幕	ファンサブ
WILD COW STEAK & MEAT (00:14:49)	野生牛 牛排&牛肉 (野生の牛 ステーキ&牛肉)	翻訳なし
CASINO KINGS (00:14:55)	賭城 (カジノ)	翻訳なし
CASINO (00:40:02)	赌场 (カジノ)	翻訳なし

表6 画面上のアルファベット

公式字幕は画面の中心部位に出現するアルファベットを全て翻訳している。その字幕の位置は会話の字幕の真上にあるため、同時に会話もある場合、字幕全体が2行になる。公式字幕の翻訳者が英語の分からない視聴者のために翻訳したのであろうが、実際にはその出現時間はどれも短く、1秒にも満たない場合が多い上に、字幕に気を取られ、画面自体に集中できなくなる。ましてほとんどがネオンサインライトの看板で、意味が分からなくても、エンターテインメントシティの贅沢さは十分に伝わる。ファンサブのように翻訳しないほうがいい。面白いのは、会話中の「カジノ」は全部「游艺場」に翻訳されているのに、画面上の「CASINO」はそのまま「赌场」と翻訳されている。

公式字幕とファンサブの違いには二つの理由がある。一つは中国の国家新聞出版広電総局の政策により、外来語が中国語に浸透するのを防ぐため、ニュース放送、記者のインタビュー、字幕にアルファベットの略語を極力使わず中国語の名称で言うようにしなければならない。アルファベットの略語すら回避されているから、アルファベットの単語も当然使われない。しかし、ファンサブがそれに従う必要はない。もう一つの理由は目標視聴者の違いによるものである。公式字幕は英語が分からない子どもを基準にしていて、全て中国語で表さなければならない。それに対して、ファンサブの視聴者は自ら動画サイトなどにアクセスし映画を見ている。即ち、ファンサブの視聴者は一定のパソコン知識を持っているような若者である。そういう若者は基本的な教育を受けており、最低限の英語力を備えているはずで、ファンサブの翻訳者は何の心配もなく簡単な英語なら字幕に使い、画面上の英語を翻訳せずにおくことができる。

#### 4.3 注釈の有無

視聴者が映画館で映画を鑑賞するとき、見逃したシーンや聞き取れない会話があっても巻き戻してもう一度見ることはできない。そのため、読むのに時間がかかる注釈は公式字幕には使えない。しかし、ファンサブはパソコンで見えるもので、長い注釈があっても、映画を止めたり巻き戻したりして注釈を読み終えることが可能である。このファンサブは注釈が5箇所があり、新出人物の名前や地名の意味を説明している。注釈は画面トップの真ん中に入れられている。

公式字幕もファンサブも人名を音訳しているが、ファンサブはその上さらに名前の由来まで説明している。ダイスは丁半ゲームのディーラーで、派手な服や装飾品にサイコロの出目があり、合わせれば一つの完全なサイコロになる。名前まで「サイコロ」だと視聴者に分かれば、面白みが一気に増す。ステラは敵の首領ギルド・テゾーロ若い頃の思い人で、

テゾーロが金の亡者になったきっかけはステラの死であった。テゾーロの背中には奴隷としての焼印があり、自由を獲得したあと、それを隠すために大きな星型の焼印で上書きした。星形を選んだ理由はステラを記念するためでもある。ステラの意味を知らなければ、その焼印の意味が観る者に伝わらない。

「THE REORO」はグラン・テゾーロにある世界一の八つ星ホテルである。公式字幕は中国語に直訳しているが、ファンサブはアルファベットをそのまま表示している。「REORO」は英語ではないので、説明する必要がある。ファンサブの注釈は非常に詳細で、その造語の構造まで説明している。

原文	公式字幕	ファンサブ
彼はダイス (00:30:18)	他叫戴伊斯 (彼はダイス)	他是戴斯 注: 名字来源于 Dice 意为“色子” (彼はダイス 注: 名前の由来は Dice 意味は「サイコロ」)
ステラ! (01:29:03)	丝忒拉 (ステラ)	斯特拉 注: 名字源于 Stella 意为“星星” 特索罗背后的烙印的来源 (ステラ 注: 名前の由来は Stella 意味は「星」 テゾーロ背後の焼印の由来)
<sup>ザ</sup> <sub>レ</sub> <sup>オー</sup> <sub>ロ</sub> THE REORO (00:18:22)	黄金之王酒店 (黄金の王ホテル)	THE REORO 注: 源自意大利语 re 意为“王” oro 意为“黄金” REORO 即为“黄金之王” (ザ レオーロ 注: イタリア語に由来する re は「王」の意味 oro は「黄金」の意味 REORO は即ち「黄金の王」)

表7 注釈

しかし、注釈が常に正しいわけではない。他の二つの注釈には誤りがある。

「グラン・テゾーロ」はこの映画の舞台である。公式字幕は「グラン」を直訳し、「テゾーロ」を音訳している。ファンサブは全体を音訳して、注釈を付けている。確かに意味は「大きな宝」だが、問題は名前の由来にある。「グラン・テゾーロ」の由来はイタリア語「Gran Tesoro」のほずで、前半は英語やフランス語の「Grand」ではない。ゲームの「バカラ」に対する説明にも問題がある。バカラは通常3人で遊ぶゲームではなく、ゲーム進行に最低3人が必要とするゲームである。実際、バカラは中国語で「百家楽(百家乐)」と呼ばれている。それを注釈に入れれば長々と説明する必要はなくなる。

原文	公式字幕	ファンサブ
グラン・テゾーロ！ (00:03:56)	大德索罗 (大テゾーロ)	格兰・特索罗 注：名字来源于 <b>Grand Tesoro</b> 意为“大宝藏” (グラン・テゾーロ 注：名前の由来は <b>Grand Tesoro</b> 意味は「大きな宝」)
私VIP専属コンシェルジュ バカラと申します (00:13:05)	我是VIP 专属接待 我叫芭卡拉 (私はVIP 専属受付係 バカラと申します)	我是VIP 的接待专员 芭卡拉 注：名字来源于 <b>Baccarat</b> 是一种流行于欧洲赌场通常由 <b>3人</b> 玩的纸牌赌博游戏 (私はVIP 専属受付係 バカラ 注：名前の由来は <b>Baccarat</b> 欧州のカジノに流行する通常 <b>3人</b> で遊ぶギャンブルカードゲーム)

表8 不適切な注釈

注釈は比較的長いので、原文が終わると同時に注釈も消えてしまうと、視聴者がそれを読み切れない恐れがある。それを防ぐために、翻訳者は注釈の長さに応じて持続時間を延長し、視聴者が映像を止めなくても読み終えるようにしている。こうすることで意味が分かる上に流れを止めずに済む。

ファンサブの翻訳者が注釈を入れる理由はできるだけ多くの情報を視聴者に伝えるため、また、自身の知識量を誇示するためでもある。Venuti (2008) にならって言えば、ファンサブの翻訳者は公式字幕の翻訳者とは違って、自分の存在を隠そうとはしないのである。

#### 4.4 誤訳の有無

誤訳は間違いなく字幕の品質を低下させる。一般的に見れば、公式字幕の翻訳者はプロで、誤訳が少なく、ファンサブの翻訳者はアマチュアで、誤訳が多いと思われる。しかし、本論文が対象とする公式字幕には誤訳が4箇所もあるのに対して、ファンサブには誤訳がない。

原文	公式字幕	ファンサブ
き かーん！ (00:10:19)	闭嘴 (黙れ)	根本没用 (全然効かない)
それにしてもたっけー なー！ (00:18:09)	不过说起来还真是贵啊 (それにしても高価だな)	话说这个好高啊 (それにしても高いな)
世界一の八つ星ホテル (00:18:20)	世界上唯一的八星级酒店 (世界唯一の八つ星ホテル)	世界第一的8星级酒店 (世界一の八つ星ホテル)
さあ ここからは プールエリア (00:24:36)	接下来就是蓝色区域 (ここからはブルーエリア)	现在来到了泳池区 (今プールエリアに来た)

表9 公式字幕の誤訳

「きかーん」も「たっけー」も主人公ルフィのセリフで、非常に特徴があるので、ひらがなで表示されている。はじめの「きかーん」の台詞が現れるのはロングロング海賊団船長が自分の長い名前を名乗る同時に、ルフィを機関銃で撃ち続ける場面で、ルフィは弾丸を浴びながら「きかーん」と叫ぶ。公式字幕の翻訳者は同音異義語の「聞く」と「効く」を混同し、「きかーん」を「効かない」ではなく、「聞かない」だと思ってしまった。

次の「たっけー」はルフィ一行が借りた金で新しい服を買ったあと、ルフィが「THE REORO」を見上げるとき「たっけー」の感想を口にする場面である。「空間的に高い」という意味で、「値段が多い」という意味ではない。

この二つの誤訳は小さなミスに見えるが、その前後のセリフと画面を合わせて見ていれば、一定の経験がある翻訳者がこのような誤訳をするはずがない。しかし、もし画面を見ず、前後のセリフだけを見ているとすれば、すべて合点がいく。つまり、「きかーん」のシーンはルフィが長々と自分の名前を名乗るロングロング海賊団船長に「きかーん」と叫んでいるようにも見える。「たっけー」のシーンはルフィが買った新しい服に対して「たっけー」の感想を言っているとも解釈できる。つまり、公式字幕の翻訳者は映像を見ずに、ただ台本に沿って翻訳した可能性が高い。画面を見ずに台本だけで翻訳すること自体は責められるべきではないが、字幕が画面と一致しているかどうかを、最終的にチェックしなかったとすれば極めて不適切である。

次の「世界一」を「世界唯一」とする誤訳は翻訳者のミスあるいは力不足であるが、「ブルーエリア」を「藍色区域 (ブルーエリア)」としてしまったのも映像を見ずに翻訳したせいであろう。「プール」と「ブルー」は確かに見間違える可能性があるが、そのシーンにはプールがあり、「プール」と「ブルー」の発音は全く異なるので、最終的にチェックすれば、このような誤訳をするはずがない。

また、公式字幕には主人公たちの名前が一致しない場合がある。

原文	公式字幕	ファンサブ
サンジ/SANJI	画面上：山治 (サンジ) 会話中：山智 (サンジ)	香吉 (サンジ)
ウソップ/USOPP	画面上：乌索普 (ウソップ) 会話中：撒谎布 (嘘っブ)	乌索普 (ウソップ)

表 10 人名の不統一

主人公一行を紹介するシーンで、画面上に主人公たちの名前がアルファベットで表示されている。公式字幕では「サンジ」と「ウソップ」の名前は画面上の翻訳と会話中の翻訳で一致していない。会話中の翻訳はマンガの公式翻訳と一致する。画面上の翻訳は他のファンサブの訳し方と同じである。このような違いが生じたのは、画面上の文字を翻訳した担当者と会話を翻訳した担当者が同一人物ではないからであろう<sup>3</sup>。そしてこの二人はお互いの翻訳を見ておらず、確認もしなかったのではないかと推測される。それならば、先に見た、画面上の懸賞金が翻訳され、「CASINO」を隠さずに「赌场」と翻訳されたのも領

ける。

さらに、公式字幕には文字の漏れが1箇所ある(00:55:08「特制(特製)」の「制」が抜けている)。上記の誤訳や不統一箇所があることを考えると、校正者も責任を果たせなかったようである。

公式字幕と比べて、ファンサブは表8で観た注釈に小さな問題がある以外は、誤訳や他のミスが見つからなかった。明らかな意味的な誤訳・誤植という側面においては、ファンサブのやり方から、公式翻訳の作業フローは学ぶべきこともあろう。

## 5. おわりに

本稿は『ONE PIECE FILM GOLD』の中国語公式字幕とファンサブを対比し、その翻訳ストラテジーの違いとその原因を分析した。その結果は以下のようにまとめられる。

1) 公式字幕は審査に対応するため、また、原作の設定を知らない視聴者のため、原文から不適切な内容を隠したり、原作の設定を削除したり、変更したりする。ファンサブは審査を受ける必要がなく、また、目標視聴者が原作の設定をよく知っているため、何も隠さず直訳に徹している。

2) 公式字幕はアルファベット表記を極力使わないようにしていると同時に、画面の中心部分に出現するアルファベット文字を悉く翻訳している。これは外来語が中国語に浸透するのを防ぐという政策によるものである。また、目標視聴者である子どもにも分かるように字幕を作っている。一方、ファンサブは政策に従う必要がないし、目標視聴者が一定程度の英語力を持っていると考え、簡単な表現であれば、アルファベットのままにしている。

3) 映画館では映画は巻き戻せないため、公式字幕には注釈がないが、パソコンで見るファンサブには注釈を入れることが可能である。ファンサブの翻訳者ができるだけ多くの情報を視聴者に伝えるため、また、自身の知識量を誇示するためにも注釈を入れる。しかし、その説明に誤りがある場合もないわけではない。

4) 公式字幕には、誤訳や人名が統一されていないことがある。公式字幕の翻訳者が映像を見ず台本だけで翻訳したと推測できる。また、画面上の文字を翻訳する人と会話を翻訳する人も同一人物とは限らない。しかし、一般的に質が公式字幕に劣るのではと思われるファンサブには誤訳がない。

今回の研究対象自体が比較的簡単なセリフが多く、翻訳しづらい言葉遊びや俗語などもほぼないため、公式字幕とファンサブに単語や句のレベルに顕著な違いは多くない。しかし、制限が厳しく、コンプライアンスを考慮した翻訳にせざるを得ない公式字幕とは異なり、ファンサブはその特徴を活かし、余計なしがらみを受けず、原文に忠実に、ほぼ直訳で目標視聴者を楽しませる翻訳をしている。

公式字幕の質を低下させる要素は主に情報の隠蔽と誤訳にある。娯楽産業としての映画で最も重要なのは、上映して興行収入を上げることである。不適切な内容を削除せずに上映できなくなれば、元も子もない。中国にはレーティングシステムが存在しないのも審査が厳しくなる要因のひとつであるが、アニメ映画であれば、レーティングシステムがあっ

でも子どもが見られるようにしなければならないので、不適切な内容があれば必ず削除される。それは仕方のないことではあるが、代用の言葉自体が書き言葉の特徴が強いので(例えば、表2の「游艺場」と「博弈」、言葉のレベルがあわず、字幕が読みにくくなってしまふ。また、不適切とはいえない設定まで変えてしまつてはならない(例えば、表4の「覇気」を「根性」とするなど)。日本語はできないが原作の設定は知っている視聴者が設定を変えられた字幕を見たら、元の知識と矛盾し、混乱するだろう。

また、公式字幕の翻訳者は翻訳スキルを向上させるほかに、台本だけではなく、映像を見て、音声を聞いて翻訳しなければならない。用語統一のため字幕制作メンバーの間でしっかり情報交換をする必要もある。

公式字幕のレベルは決して高いとは言えないが、日本映画がこれからも中国に輸入され続けるに連れ、経験豊富で優秀なプロの字幕翻訳者が養成され、公式字幕の質が向上することが期待される。その際には、配給会社がファンサブグループと協力することも考えられよう。

.....  
【著者紹介】 貢希真 (XIZHEN Gong) 東北大学国際文化研究科言語科学研究講座博士後期課程在学中。日中間の字幕翻訳の忠実性を研究する。連絡先 : xizhen.gong@gmail.com  
.....

#### 【注】

- 1 <http://www.onepiece-film2016.com/news/346.html> (2017/3/29 アクセス)
- 2 2016年日本から中国に輸入した11本の映画のうち、9本がアニメ映画、2本が実写映画である。
- 3 映画最後のスタッフロールには「翻译 李娜 传神语联」と書かれているが、他の翻訳者についての情報は無い。

#### 【参考文献】

- Bogucki, L. (2009). "Amateur subtitling on the Internet". In Diaz Cintas, J., & Anderman, G. (eds), *Audiovisual Translation: Language Transfer on Screen*. London: Palgrave Macmillan, pp. 49-57.
- Cheng, Y. J. (2014). "Chinese Subtitles of English-Language Feature Films in Taiwan: A Systematic Investigation of Solution-Types". Doctoral dissertation, Australian National University.
- Chiaro, D. (2013). "Audiovisual Translation". In Chapelle, C. A. (ed.), *The Encyclopedia of Applied Linguistics*. Oxford: Wiley-Blackwell. [Online]  
[http://s3.amazonaws.com/academia.edu.documents/44028536/Chiaro\\_Audiovisual\\_Trl.pdf?AWSAccessKeyId=AKIAIWOWYYGZ2Y53UL3A&Expires=1490805310&Signature=%2F3UDPG32yvESdj77Yi3tgsLSzvc%3D&response-content-disposition=inline%3B%20filename%3DAudiovisual\\_Translation.pdf](http://s3.amazonaws.com/academia.edu.documents/44028536/Chiaro_Audiovisual_Trl.pdf?AWSAccessKeyId=AKIAIWOWYYGZ2Y53UL3A&Expires=1490805310&Signature=%2F3UDPG32yvESdj77Yi3tgsLSzvc%3D&response-content-disposition=inline%3B%20filename%3DAudiovisual_Translation.pdf) (2017/3/29 アクセス)
- Diaz Cintas, J. (2008b). "Teaching and learning to subtitle in an academic environment". In Diaz Cintas,

- J. (ed.), *The Didactics of Audiovisual Translation*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, pp. 89-103.
- Díaz Cintas, J. (2009). "Introduction - Audiovisual Translation: An Overview of its Potential". In Díaz Cintas, J. (ed.), *New Trends in Audiovisual Translation*. Clevedon: Multilingual Matters, pp. 1-18.
- Díaz Cintas, J., & Muñoz Sánchez, P. (2006). "Fansubs: Audiovisual translation in an amateur environment". *The Journal of Specialised Translation*, 6, pp. 37-52.
- Díaz Cintas, J., & Remael, A. (2014). *Audiovisual Translation: Subtitling*. New York: Routledge.
- Fong, G. S. F. (2009). The Two Worlds of Subtitling: The Case of Vulgarisms and Sexually-oriented Language. *Dubbing and Subtitling in a World Context*, Hong Kong: Chinese University Press, 39-61.
- Karamitroglou, F. (1998). "A Proposed Set of Subtitling Standards in Europe". *Translation Journal*, 2(2), pp. 1-15.
- Lewis, P. E. (2000). "The measure of translation effects". In Venuti, L. (ed.), *The Translation Studies Reader*. London/New York: Routledge, pp. 264-283.
- Massidda, S. (2015). *Audiovisual Translation in the Digital Age: The Italian Fansubbing Phenomenon*. London: Palgrave Macmillan.
- Nornes, A. M. (1999). "For an abusive subtitling". *Film Quarterly*, 52(3), pp. 17-34.
- Pedersen, J. (2011). *Subtitling Norms for Television: An exploration focusing on extralinguistic cultural references*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Pettit, Z. (2009). "Connecting Cultures: Cultural Transfer in Subtitling and Dubbing". In Díaz Cintas, J. (ed.), *New Trends in Audiovisual Translation*. Clevedon: Multilingual Matters, pp. 44-57.
- Venuti, L. (2008). *The Translator's Invisibility: A History of Translation*. 2<sup>nd</sup> Edition. London/New York: Routledge.
- 清水俊二 (1992) 『映画字幕は翻訳ではない』 早川書房
- 吴燊 (2010) 传播学视角下的国内日本动画字幕组研究 Master's thesis 中南大学